

## 2011 年 工学部 第 4 問

4 別々に製造される部品 A と部品 B を 1 個ずつ組み合わせて製造する製品がある。製品の不良は各部品の不良のみに由来し、部品 A に不良が生じる確率は  $\frac{1}{9}$ 、部品 B に不良が生じる確率は  $\frac{1}{4}$  である。製品を製造した後、検査するまで各部品が不良であるかどうかは分からないとする。以下の問いに答えよ。

- (1) 合格品（不良が無い製品）が製造される確率を求めよ。
- (2) 製品を 5 個製造した後、検査を行ったとき、4 個以上が合格品である確率を求めよ。
- (3) この製品 1 個の販売価格は 1, 200 円である。また、部品 A の 1 個あたりの製造費用は 300 円であり、部品 B の 1 個あたりの製造費用は 100 円である。製品 1 個あたりの利益は、以下の式で計算される。

$$(\text{製品 1 個あたりの利益}) = (\text{販売価格}) - (\text{製品 1 個あたりの費用})$$

製品 1 個あたりの費用が部品 A と B の製造費用のみと考えてよいとき、製品 1 個あたりの利益の期待値を求めよ。なお、不良品（不良のある製品）は販売しないため、上式の（販売価格）項が 0 となり負の利益（損失）が生じることを考慮せよ。

- (4) 新たに工作機械を導入することで、部品 B に不良が生じる確率を  $\frac{1}{8}$  にすることができる。しかし、この工作機械の導入費用として 500, 000 円が必要であり、これに加えて部品 B の 1 個あたりの製造費用は 100 円増加する。10, 000 個製品を製造するとき、工作機械を導入する場合としない場合でどちらが有利か、工作機械を導入する場合の製品 1 個あたりの利益の期待値を示した上で判定せよ。ただし、工作機械の導入費用は 10, 000 個の製品の製造でまかなうものとする。また、販売価格および部品 A の製造費用は (3) と同じとする。